

ぱれっと

2月 2014
No.174

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。



ハジマル、フクラムプロジェクト vol.4
「支えて楽しむスポーツのかたち」
ゲスト：市民スポーツボランティアSV2004

P2～P3 **協働** のまちづくり SENDAI ▷

支援を断絶させないネットワークづくり

P4 **復興へのあゆみ** ▷ 思い出が持ち主に帰るまで、いつまでも待っています

P5 **つながる つなげる サポセン** ▷ 社会保険労務士に聞く労務手続き入門講座 ご報告

P6 **仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ**



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

支援を断絶させないネットワークづくり

NPO法人キッズドア × 仙台市健康福祉局社会課 × 子供未来局子育て支援課

(以下、キッズドア)

(以下、社会課)

(以下、子育て支援課)

現在、3者が協働で取り組む「子どもを中心とした困窮家庭への生活支援ネットワーク化事業」が進められています。これは、平成25年度市民協働事業提案制度で採択された事業の一つです。向き合う課題は、世代間を越えて連鎖する貧困。官民協働で取り組む、組織を越えた包括的支援体制づくりについて伺いました。

日本における子どもの貧困

日本では、子どもの貧困が大きな社会問題となっていることをご存知でしょうか。子どもがいる生活困窮世帯のうち、生活保護受給世帯や児童養護施設など行政のサポートを受けているのは、子どもがいる生活困窮世帯全体の3割と言われています。一方、行政のサポートが入らない困窮家庭の子どもたちの存在は見えにくく、支援が届きにくい状況があります。その中には一人親、親の病気や障害、失業などの課題を抱えた家庭の子どもが含まれています。

教育にはお金がかかるため、生活困窮世帯の子どもには、教育・学習機会の不足という課題があり、貧困の世代間連鎖を起こす大きな原因となっています。教育・学習機会の不足および低学歴は、非正規雇用などの不安定な就労につながりやすく、不安定な就労は、能力開発の機会の不足や低収入につながり、結果として貧困状態から抜け出すことが難しくなるからです。また、不安定な就労は継続的な人や社会とのつながりを形成しにくく、孤立にもつながる可能性が指摘されています。

キッズドアは、2007年から東京を拠点に教育格差是正のために、学習支援などを行っています。経済的に困難な状況から未来をあきらめかけている子どもたちに、希望を持って勉強に取り組む場所をつくり、社会に貢献する人材へと育てることで、貧困の世代間連鎖を食い止めることを目指しています。現在、教科書学習に加え、働くときに求められる力



平成25年度第6回 仙台市民協働提案制度検討会

の育成にも取り組んでいます。

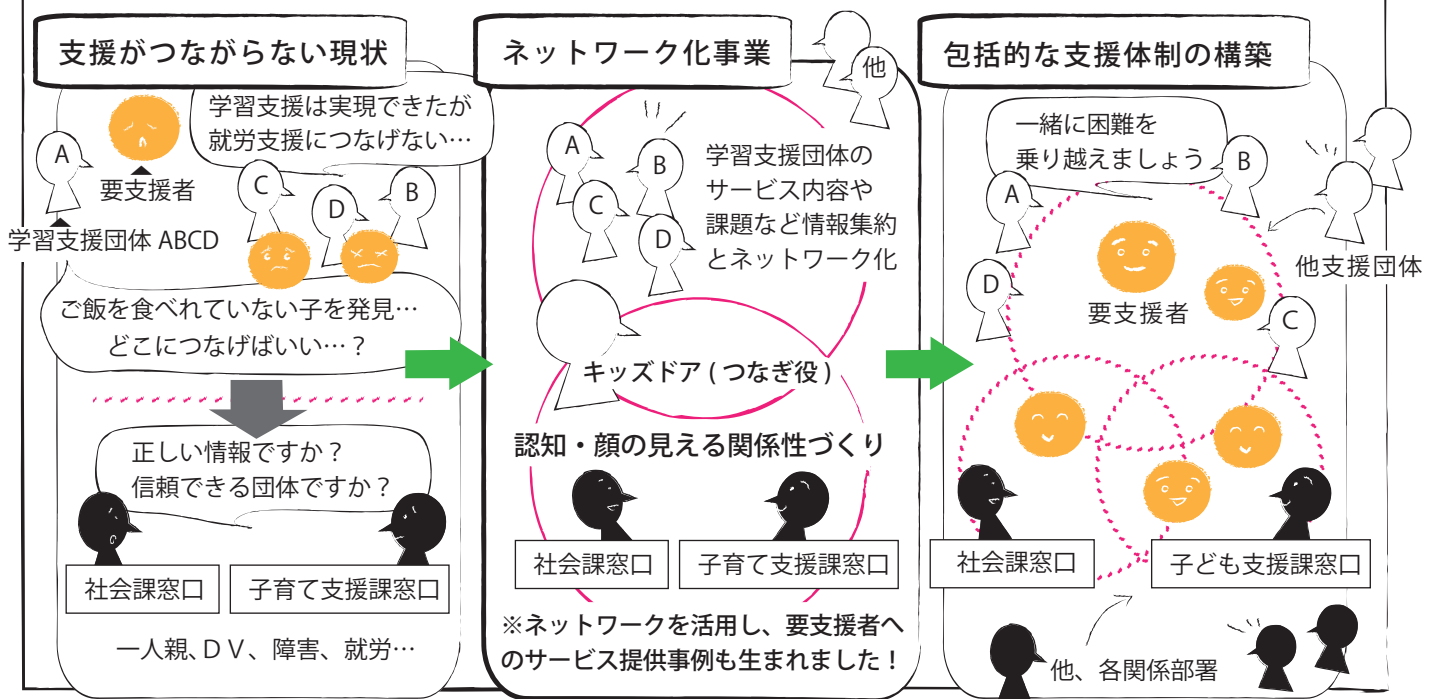
子どもを中心とした困窮家庭への生活支援ネットワーク化事業

現在、貧困の連鎖の要因となる様々な課題解決のため、仙台・宮城には行政窓口や子ども支援、親支援、生活支援と就労支援など各分野で活動するNPOや市民団体があります。貧困の連鎖は、一つの事が解決したからと言って食い止められるものではないため、連携が欠かせません。しかし現場では、支援団体同士、団体と行政窓口間とが、顔の見える関係性を築いていることはまだ少なく、スムーズな連携が取りにくいという課題を抱えています。

そこで今回キッズドアは、支援団体や行政窓口が行っている支援サービスや強みを生かし合うネットワークを構築する「子どもを中心とした困窮家庭への生活支援ネットワーク化事業」を提案しました。この事業では行政と各市民団体がお互いの活動内容を理解し合うなど、顔が見える関係をつくるため、定期的にネットワーク化会議を行ってきました。

協働のポイント

現在、なかなか目に見えにくい貧困潜在層に対し、支援の網を広げるため、生活困窮世帯の子どもを対象に仙台市内で活動する学習支援団体と、福祉や教育といった各行政窓口が連携するきっかけをつくり、今後の組織横断型の支援体制づくりを目指しています。



これからの支援体制 3者の視点から

この協働事業にキッズドアと共に取り組んでいるのは、仙台市の社会課と子育て支援課です。ネットワーク化の準備を進める中、様々な困難があったと話す3者。しかし社会課は、生活困窮者をどう見つけていくかという課題に対しこの協働は有効と捉えています。「現在、まず学習支援団体との関係性ができつつある。今後も様々な団体と顔の見える関係をつくることで、生活困窮者対策として対応できる幅を広げていきたい。窓口には分からない『困っている人』を認知し、協力を求め合うことができるようになる」と前向きです。子育て支援課は「担当部署ではまだまだ学習支援団体の認知度は高くあり

ません。今後、各担当部署に開催予定のネットワーク化会議などへの参加を働きかけ、行政窓口と団体との関係づくりをサポートしていきたい」と話します。

キッズドアの片貝さんは「具体的に連携の仕組みを作っていき、事例を積み上げていきたい。また、各分野のプロフェッショナルである行政窓口に頼り切るのではなく、団体も現場でのスキルを上げなくては行けない。協働の中で経験を積み、同じ土俵に立てるよう、勉強していきたい」と、これからの意欲を燃やします。

子どもの貧困は、様々な要因が絡み合う根深い問題です。今、組織を越え共に取り組んでいく体制が構築されようとしています。
(松村翔子)

▶ 市民協働事業提案制度とは？

地域の身近な課題について、市民団体などの提案をもとに、仙台市との協働で解決していく制度です。団体の専門性やネットワークを生かし、仙台市とともに取り組むことで、地域のニーズにこたえることが見込める事業提案を、平成24年度より募集しています。

団体情報

NPO 法人キッズドア

事務局／東北本部

〒983-0852

仙台市宮城野区榴岡 4-1-8 パルシティ仙台 1階 C

TEL : 022-354-1157 FAX : 050-3000-2077

Mail : katakai@kidsdoor.net

HP : (TOP) <http://www.kidsdoor.net/>

(復興) <http://kidsdoor-fukko.net/>

思い出が持ち主に帰るまで、いつまでも待っています

震災復興ボランティア団体「おもいでかえる」は、東日本大震災の津波で汚れた写真などの思い出の品を被災者へ返すために、洗浄・展示会を行っています。理事長の野瀬香織さんは、愛知県へ転居した後も、事務局として事務作業や作業補助を続けています。

展示会に向けて準備中▶



写真を「洗う」という取り組み

東日本大震災の津波で汚れてしまった写真を、「少しでもきれいな状態で持ち主に返そう」と、震災後写真洗浄の取り組みが全国各地で始まりました。

仙台市でも、発見された写真やランドセル、トロフィーなどを洗浄し、展示・返却する展示会が行われました。震災復興ボランティア団体おもいでかえる(以下、おもいでかえる)は、その時集まったボランティアが中心となり、2012年3月に立ち上がった団体です。洗浄し切れなかった写真や展示会で持ち主が見つからなかった品を市から引き取り、活動を引き継ぎました。

震災以前、写真洗浄のニーズも技術もほとんどありませんでした。長い時間濡れたままでカビが生える、写真同士がくっつく、原型がないほど消えかかっているなど、それぞれ状態が異なる写真に試行錯誤を重ねながら、洗浄・復元のノウハウを培ってきました。

取りに来ようと思える時まで

これまで3度の展示会を開催し、約10万枚の写真、約3000点の思い出の品を返却してきました。しかし、これは洗浄したうちの3分の1とのこと。「思い出がつまっているだけに、余計辛くなってしまうことが怖い、取りに来る心の準備ができていない方もいると思います。その人のタイミングが来るまで、長期的に保管するつもりです」と野瀬さん。

自分の目で被災地を見て下さい

おもいでかえるには、これまでほぼ全都道府県からボランティアが参加しており、海外から来ることも。活動を始める前のオリエンテーションでは、仙台市沿岸部やこれまでの活動の様子をまとめた映像を流すなど、被災地の現状を伝えることを大切にしています。野瀬さんは「同じ仙台市内でも、沿岸部と内陸では被害状況や意識に大きな差があります。活動に参加してもらえることはもちろん嬉しいし助かりますが、まずは被災地の今を知ってもらいたいという思いが強いです。写真を探している人がいる限り活動を続けていきたいと考えているので、ぜひ一度来ていただきたいと思います」と話します。

丁寧に洗浄、修復された写真には重みを感じられ、持ち主を静かに待っているようでした。

(難波未由希)

団体情報

震災復興ボランティア団体「おもいでかえる」

活動拠点：仙台市若林区荒井大場伝 20-12

事務所：愛知県海部郡蟹江町今西 1-306

TEL：070-5252-3585(事務局)

HP：<http://www.omoide-kaeru.com/>

次回展示会

2014年3月7日～3月16日 10:00～17:00

宮城野区出花体育館

つながる
つなげる
サポセン

1/15(水) 13:30 ~ 15:30

NPO 運営基礎講座

社会保険労務士 に聞く

労務

 手続き入門講座

有給スタッフや有償ボランティアを抱えているNPO向けに、NPO 運営基礎講座「社会保険労務士に聞く 労務手続き入門講座」を開催しました。

スタッフやボランティアが、安心して長く活動できる組織環境を整えることは、働く人のためだけでなく、団体の安定した活動にもつながります。そのために、「労務」の基礎と考え方を身につけることが必要です。労務の基礎知識を得ておきたい、今後雇用を考えている、現在有給スタッフがいる...といった、11団体13名の方にご参加いただきました。



第1部

NPOの労務環境の特性について

NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター事務局長・常務理事の伊藤浩子さんより、同法人が2012年秋に実施したNPOへの調査結果に基づいて、「労務環境」という視点からNPOが抱える課題をお話いただきました。現状は以下の通りです。

- ・有給スタッフや有償ボランティアがいるNPOが増えている
- ・特に「人件費」の財源が不安定
- ・財政基盤の不安定→人材の不足→中長期的事業の見通しが立てられない
- ・労務担当経験・知識のあるスタッフが団体内には限らない

→ 団体の活動を継続させていくには、スタッフと団体側との意思疎通や理念の共通、活動環境を整えることが必要。

**黒政健さん**社会保険労務士
(くろまさ社会保険労務士事務所)

2010年事務所開設。震災後は石巻で助成金支給申請アドバイザーとして支援活動にあたった。東北を元気にする活動に邁進するアツイ社会保険労務士。

**伊藤浩子さん**NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター
事務局長・常務理事

事務局長として、法人本部スタッフに加え仙台市、多賀城市の市民活動センタースタッフ、みやぎ連携復興センタースタッフを含めた大所帯を動かしている。

第2部

労務の基礎実務について

社会保険労務士(くろまさ社会保険労務士事務所)の黒政健さんに、主に以下の4点を解説していただきました。

- ・雇用から退職までの労務管理について
- ・就業規則について
- ・必要な帳簿について
- ・相談機関について

分からないことがあったら、悩むより聞いてしまった方が早いですよ。頼れるところは頼って、ひとつひとつ解決していきましょう!

by 黒政さん

「初めての労務担当なので、参加しました」「基本を学べて良かった」「分かりやすかった」という参加者の声に、講座担当スタッフも一安心です。

今後、今回よりも踏み込んだ内容の講座や個別相談なども検討していきたいと思っています。決まり次第、サポセンのホームページやブログ・twitter、チラシなどでお知らせします。

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

サポセン2014年 復興支援活動報告会

2014.3.9^{SUN} つながることが
17:00～19:30 まちのチカラになる

ゲスト 藤 浩志 さん(十和田市現代美術館副館長)
六郷・七郷コミネット
南蒲生復興部

立場や考え、関わり方も違うけど、社会や地域のこと、みんないろいろ考えています。アートを通じて多様な出会いを生む藤浩志さんと、地域復興に向かう団体のお話から、いろいろな人が想いを寄せ合う地域について考えます。

つながる つなげる サポセン

▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▷相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

▶仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

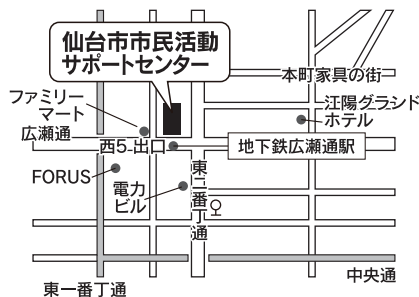
このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日祝：午前10時～午後5時

▷ご案内図



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前
[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ
- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

お申込み受付中!

会場：宮城野区文化センター パトナシアター

定員：50名(先着順)

申込み方法：

お電話、メール、サポセン窓口にて受け付けております。

TEL：022-212-3010

Mail：sendai@sapo-sen.jp

参加無料 どなたでもご参加いただけます。

▷「ぱれっと」読者アンケート にご協力をお願いします!

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



編集後記：

2月になり、そろそろ年度末が近付いてきました。事業のまとめの時期という方が多いのではないのでしょうか。サポセンでも報告書を作り始めました。2/22には NPO 向け助成金の報告書書き方講座を開催します。きちんと報告することは、団体の良い PR にもなります。ポジティブに考えて、忙しい時期を乗り切りましょう!

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目 1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
HP <http://www.sapo-sen.jp>
Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2014年2月13日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター
編集人：菊地竜生 菅野祥子 田口博徳 葛西淳子 松村翔子

▽開館時間

平日：午前9時～午後10時 / 日祝：午前9時～午後6時

▼休館日

毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)
及び、年末年始(12/29～1/3)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010年4月1日～2015年3月31日]